

名古屋市地域公共交通計画の今後の取組について

1 名古屋市地域公共交通協議会における計画の進捗管理等

- 令和6年3月名古屋市地域公共交通計画が策定されました。毎年度当初に当該計画に基づく施策の主な取組などを名古屋市地域公共交通協議会で説明させていただき、その内容や進め方について協議を行い、部会と連携しながら、関係者の皆様のご意見を伺ってとりまとめを行っていきます。
- 毎年度末に計画に定めた事業の実施状況に基づき、事業評価等結果を作成します。
- 結果について、名古屋市地域公共交通協議会において報告を行い、次年度以降における各取組の効率的・効果的な推進についてご意見を伺い、次年度以降の主な取組の検討・見直しを行います。
- 名古屋市地域公共交通計画では、施策の実施スケジュールと計画期間における進捗管理・評価スケジュールは以下のとおりとなっています。

■ 施策の実施スケジュール

施策	2024	2025	2026	2027	2028	実施主体
（１）公共交通による移動サービス水準の維持・確保						
①求められる役割にあわせた公共交通の維持・確保	「幹」「枝」「葉」の役割の整理にあわせ、交通事業者、行政、市民利用者と いった実施主体が連携・協働しながら、公共交通の維持・確保をはかります				名古屋市・交通事業者・市民利用者	
②公共交通のわかりやすさ・使いやすさの向上と利用促進	公共交通の現状や乗換案内など、市民利用者へ情報提供 する内容の整理を行います		公共交通の現状などを市民利用者に周知し、 自動車から公共交通への転換を促します		名古屋市・交通事業者・市民利用者	
③ガイドウェイバスへの自動運転技術の実装	GWBへの自動運転技術の実装に向けた取組みを進めます			GWBへの自動運転技術の実装で得られた技術・経験等を、 基幹的公共交通へ展開することを検討していきます		名古屋市・交通事業者・企業
（２）地域の実情に応じた移動手段の確保						
①交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入	交通支援制度を活用した実証実験を行います		支援制度を活用し、地域主体による新たな移動手段の導入を促進します 新たな移動手段の有効性に関する効果検証を行います			名古屋市・交通事業者 市民利用者
（３）先進技術を活用したシームレスな移動環境の形成						
①AI技術を活用した新たな移動手段の導入検討	新たな移動手段の導入に向けた実証実験における活用を検討します		新たな移動手段の導入にあたって、AI技術を活用することで、さらなる利便性の向上をはかります			名古屋市・交通事業者 市民利用者・企業
②MaaSの実現	GTFSデータの整備等乗換検索の利便性向上をはかります		交通サービスの情報連携や他分野との連携を検討します			名古屋市・交通事業者 市民利用者・企業
③環境にやさしい交通の促進	カーボンニュートラルを推進するため、公共交通の利用を促すとともに、 環境に配慮した車両への転換を検討していきます					名古屋市・交通事業者 市民利用者・企業
④データを活用した移動実態調査・分析	地域公共交通協議会において、パーソントリップ調査や交通事業者の所有するデータなどの共有を行います まちづくりと連携し、ビッグデータ等を活用した移動手段の検討を行います					名古屋市・交通事業者 市民利用者・企業
⑤回遊性を高めるための新たな路面公共交通システム「SRT」の導入	導入に向けた調査・検討、 社会実験を実施します	名駅・栄間へSRTを導入します 都心部周回ルートへの展開等 を検討します		事業規模の拡大をはかります		名古屋市・交通事業者・企業

■ 計画期間における進捗管理・評価スケジュール

	令和6(2024)年度		令和7(2025)年度		令和8(2026)年度		令和9(2027)年度		令和10(2028)年度		令和11(2029)年度～
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
事業の計画 (Plan)	①次年度事業計画の検討		反映		反映		反映		反映		
事業の実施 (Do)	②事業の実施		反映		反映		反映		反映		
事業内容や目標達成状況の確認・評価 (Check)	③事業の評価		反映		反映		反映		反映		
改善・反映 (Action)	④評価結果・課題共有 次年度実施予定内容		必要に応じて見直し		必要に応じて見直し		必要に応じて見直し		必要に応じて見直し		次期計画策定

■ 今年度スケジュール（予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
名古屋市 地域公共交通協議会			開催							開催		
			P ①今年度事業概要説明 次年度事業企画提案						P ①来年度概要説明			
	D ②事業の実施											
								③今年度 事業内部評価	③今年度 事業評価	C		
部会			開催								A ④改善・反映	
					開催					開催		

※出典：名古屋市地域公共交通計画P50抜粋

※今後、協議・報告案件によって変更する場合がございます。

2 令和6年度における施策の取組

・名古屋市地域公共交通計画に記載している施策に基づき、取組状況を整理させていただきました。

実施施策	R6年度の主な取組	R7年度（案）
（1）公共交通による移動サービス水準の維持・確保		
① 求められる役割に合わせた公共交通の維持・確保 ②公共交通のわかりやすさ・使いやすさの向上と利用促進 ③ ガイドウェイバスへの自動運転技術の実装	・ 交通支援制度を活用した実証実験（西福田学区） 公共交通空白地のうち、昨年度にアンケート調査を行うなど地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる。西福田学区において、令和6年度秋ごろから、新たな移動手段導入に係る実証実験を予定。	実証運行実施・他地域展開予定
	・ 公共交通マップの作成（名古屋市における鉄道路線図・バス路線図の作成） 公共交通利用促進をはかるため、各交通事業者を1枚に収めた公共交通マップ（鉄道・バス）を作成。来年度に向けて名古屋市予算要求。	作成予定
	・ バリアフリールート情報提供 誰もが駅周辺の移動をスムーズに行えるための情報提供として、バリアフリーマップ公開中。	継続実施
	・ 自動運転技術の実装に向けた取組み 高架区間特有の課題（狭さ、急カーブ、横風など）解決に向け、専用実験車両の設計に着手を予定。	継続実施
（2）地域の実情に応じた移動手段の確保		
① 交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入	・ 【再掲】交通支援制度を活用した実証実験（西福田学区） 公共交通空白地のうち、昨年度にアンケート調査を行うなど地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる。西福田学区において、令和6年度秋ごろから、新たな移動手段導入に係る実証実験を予定。	実証運行実施・他地域展開予定
（3）先進技術を活用したシームレスな移動環境の形成		
① AI技術を活用した新たな移動手段の導入検討 ② MaaSの実現 ③ 環境にやさしい交通の促進 ④ データを活用した移動実態調査・分析 ⑤ 回遊性を高めるための新たな路面公共交通システム「SRT」の導入	・ 【再掲】交通支援制度を活用した実証実験（西福田学区） 公共交通空白地のうち、昨年度にアンケート調査を行うなど地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる。西福田学区において、令和6年度秋ごろから、新たな移動手段導入に係る実証実験を予定。	実証運行実施・他地域展開予定
	・ mobi 千種区において実証実験を実施中。	未定
	・ 「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の整備 名古屋市交通局において実施予定。	継続実施
	・ 各事業者に非化石エネルギーの導入状況について今後照会予定。	継続実施
	・ データの利活用によるニーズの把握・分析 の検討。	未定
	・ 令和7年度の「東西ルート（名古屋駅-栄間）」の運行開始に向けて、乗降・待合空間の整備や車両の製造、関係機関との協議。	運行開始予定

※R7年度につきましては、予算措置状況やR6年度取組の検証結果等により変更する可能性があります。